

富山市総合体育館 <全体概要>

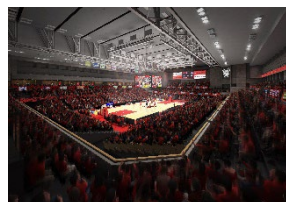
プロジェクトのポイント

- ・ 築25年が経過する富山市総合体育館において、改修及び運営・維持管理を一体的に実施する事業で、**国内のスタジアム・アリーナでは初となる、Rehabilitate + 公共施設運営権（Rコンセッション）方式を導入**
- ・ 富山グラウジーズのホームアリーナとしてBリーグ試合を開催する一方、平常時は引き続き市民スポーツの場として活用される見込みで、**「みる」スポーツと「する」スポーツの「共用型」アリーナ**として貴重なロールモデルとなる施設
- ・ **駅に近く、観光拠点集積エリアという立地を活かした運営計画**

施設概要

所 在 地	富山市湊入船町12番 1 号		
面 積	敷地	17,288.66㎡	延床 28,681.97㎡
構 造	鉄骨コンクリート造・一部鉄骨造 地上3階・地下1階建 新耐震		
観 客 席	5,035席（可動席：2,280席 固定席：2,755席） ※Bリーグ公式戦		
付 帯 施 設	VIPルーム	有り	
	飲食・物販	有り	
	その他	体操練習場、弓道練習場、ボクシング室、3X3バスケットボールコート、フィットネスルーム、会議室 等	
ホームチーム	富山グラウジーズ（2026-2027シーズンよりBプレミア）		
用 途	・ Bリーグ公式戦、市・県大会 ・ 市民スポーツ利用 ・ 音楽興行		
防 災 機 能	指定緊急避難場所（洪水時は除く）及び指定避難所		

施設写真（パース）



アリーナ（Bリーグ開催時）



アリーナ（一般開放時）

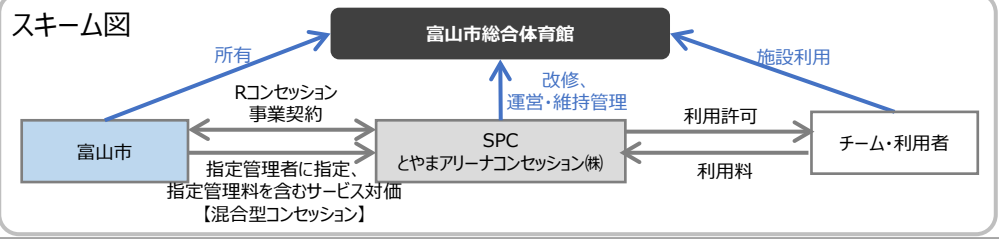


一般の方も利用可能なショップ

事業概要

事業手法	Rehabilitate + 公共施設運営権（Rコンセッション）方式		
事業主体	富山市		
所有者	土地：富山市	建物：富山市	
実施主体	改修：SPC（とやまアリーナコンセッション(株)） 運営・維持管理：SPC（とやまアリーナコンセッション(株)）		

スキーム図



事業期間	改修（工期）：2025年4月～2026年9月 1年6ヶ月	
	運営・維持管理：2026年10月～2041年9月（13年間）	
事業費	約80億円（15年間）	
資金調達	・ 市債約30億円 ・ デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生拠点整備タイプ）約10億円 ・ 民間資金（企業版ふるさと納税、寄付）約5～10億円 ・ 他、一般財源	
	収 入	支 出
	（百万円） （2027計画）	
	非公開	非公開
利用料金収入		非公開
その他収入		非公開
指定管理料等		非公開

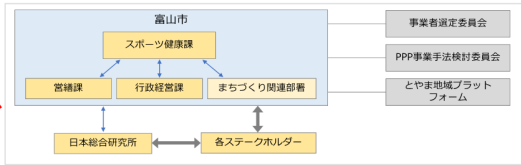
行政の
役割・支援

- ・ 市債発行と補助金・寄付金の調達、事業実施の監督

富山市総合体育館 <評価ポイント>

【ポイント①】ステークホルダーの確認と検討・連携体制の整備

- 富山市のスポーツ健康課をはじめ、庁内横断的な検討体制を構築している。総合体育館を**富山駅北エリアの中核とした長期的なまちづくりや地域連携を全庁体制で検討、合意形成**している。
- 事業化と民間活力の導入の検討においては、2019年から2023年にかけて富山市と民間事業者による対話を6回開催し、施設の既存利用者やBリーグクラブの他、**イベントプロモーター等潜在顧客へのヒアリングに基づき需要分析を行い**、事業性について適正な評価を行った。



【ポイント②】運営・維持管理に係る検討

- 富山市では2021年度までに、改修に関し、**維持管理・更新の最適化や賑わい創出の点から一括発注の優位性を評価**し、PFI-RO方式による実施を想定していた。
- その後、「Bリーグプレミア」の2026年創設を受け、引き続き地元Bリーグクラブ「富山グラウジーズ」のホームアリーナとすることを視野に、**施設のバリューアップと民間事業者による自由度の高い運営により貸館・非貸館収入を拡大するコンセッション方式の導入可能性検討※**を行った。
- 調査の結果、Bリーグ興行と市民利用が新体育館の主たる用途となることが想定された。これを踏まえ、独立採算ではなく、**市が運営・維持管理に係るサービス対価を一部負担する「混合型コンセッション」を採用するに至った。**

※ 令和4年12月に内閣府・スポーツ庁が「スタジアム・アリーナに係るコンセッション事業活用ガイドライン」を策定しており、検討に際し、参照している。

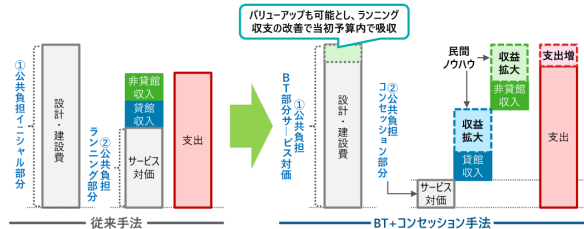


図12 混合型の事業スキームのイメージ（参考）

出所：スタジアム・アリーナに係るコンセッション事業活用ガイドライン（令和4年12月）

【ポイント③】顧客経験価値の向上

- 本事業では、Bプレミア対応に向けた改修を実施する。既存施設の価値を最大化し、主たる興行である**Bリーグ公式戦の観戦体験をより高めることで、収益機会を増やす改修計画**となっている。平常時に利用する市民も更新された快適な施設を活用可能となる。
- ✓ 全座席の更新とバリエーション追加
- ✓ 映像装置を増設及び高性能化
- ✓ 通信環境を強化（5G、Wi-Fi等）
- ✓ VIPルームと専用の共用空間を新設
- ✓ 富岩運河環水公園に開かれたラウンジと常設飲食店を新設
- ✓ 円滑なホスピタリティサービス提供に向け、バックヤードを改善



ラウンジ（Bリーグ開催時）



バンカースイートルウンジ

【ポイント④】収益モデルの確立とプロフィットセンターへの変革

- 老朽化部分の改修費用は市債及び一般財源から拠出するが、映像装置の更新・追加やVIPルームの設置といった、**Bプレミア対応や施設の魅力化向上に要する費用については、デジタル田園都市国家構想交付金の他、企業版ふるさと納税を中心とする寄付で賄う想定**であり、富山グラウジーズが中心となり、市内外の企業や団体等に働きかけを行っている。
- 施設のバリューアップに伴う**収益拡大により市が負担する指定管理料も現行から大きく減少する予定**である。
- 富山市は、従来の貸館モデルからの脱却を目指し、収入増加策として非貸館収入の増加を重視した。事業者公募の際、**飲食・物販、広告、ネーミングライツ、スポーツ振興等による収入機会を事業者に与えることとした上で、提案自由度を高めるべく、事業者の裁量を確保した。**
- 事業者は、非貸館収入を最大化すべく、**飲食・広告収入増加につながるハード設計や、構成員であるクラブと連携したイベント等を提案した。**
- 施設のネーミングライツはYKK AP(株)が取得済みで、今後、VIPルーム等のスポンサーセールスを行う。
- 広告掲載箇所の増設や商品設計の多様化により、**スポンサーニーズへのより柔軟な対応**が期待される。

施設改修費	
老朽化対策	施設アップグレード
一般財源等	寄付金・交付金等

資金調達内訳